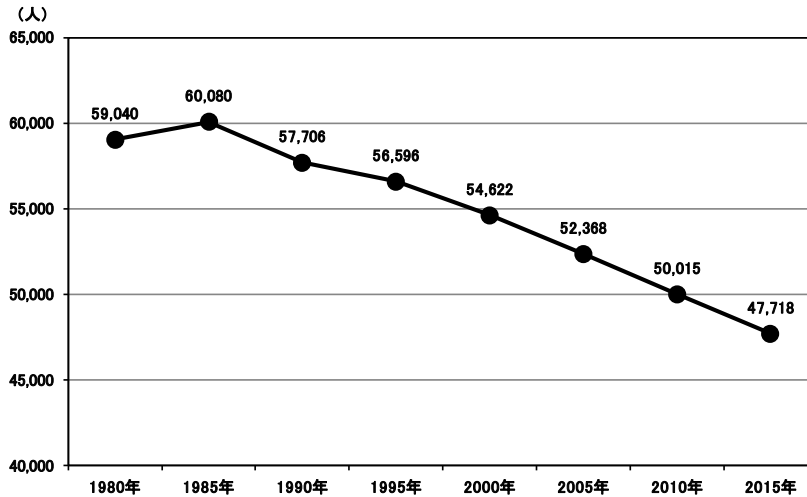


人口動向と将来推計

1. 人口動向

1985年（昭和60年）以降、本市の人口は以降減少し、2015年（平成27年）には、47,718人となっています。

■総人口の推移■



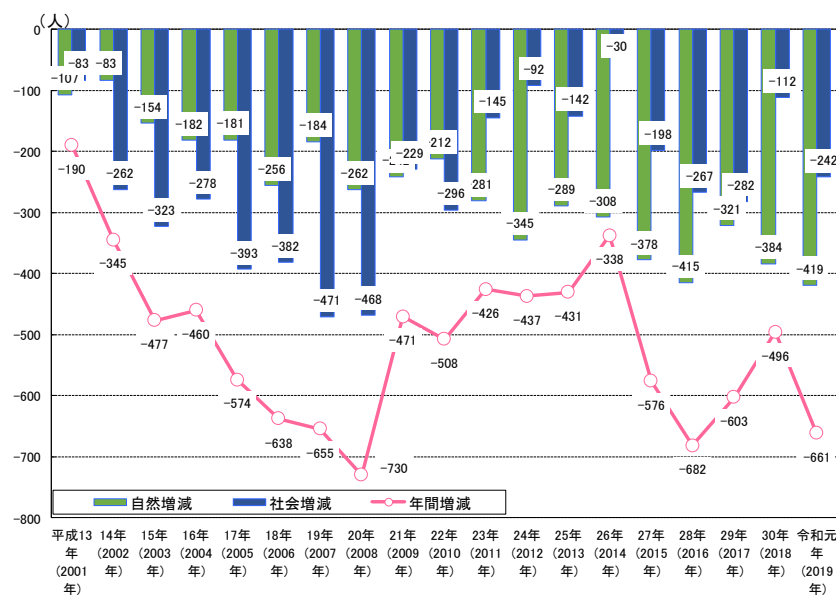
(資料)総務省「国勢調査」

(1) 社会動態・自然動態

転入数から転出数を引いた社会増減をみると、2000年（平成12年）以降、転出数が転入数を上回る社会減が続いており、2019年（令和元年）には、242人の転出超過となっています。

出生数から死亡数を引いた自然増減をみると、2000年（平成12年）以降、死亡数が出生数を上回る自然減で推移しており、2019年（令和元年）には、419人ほど死亡数が上回っています。

■社会増減と自然増減の推移■



(資料)総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

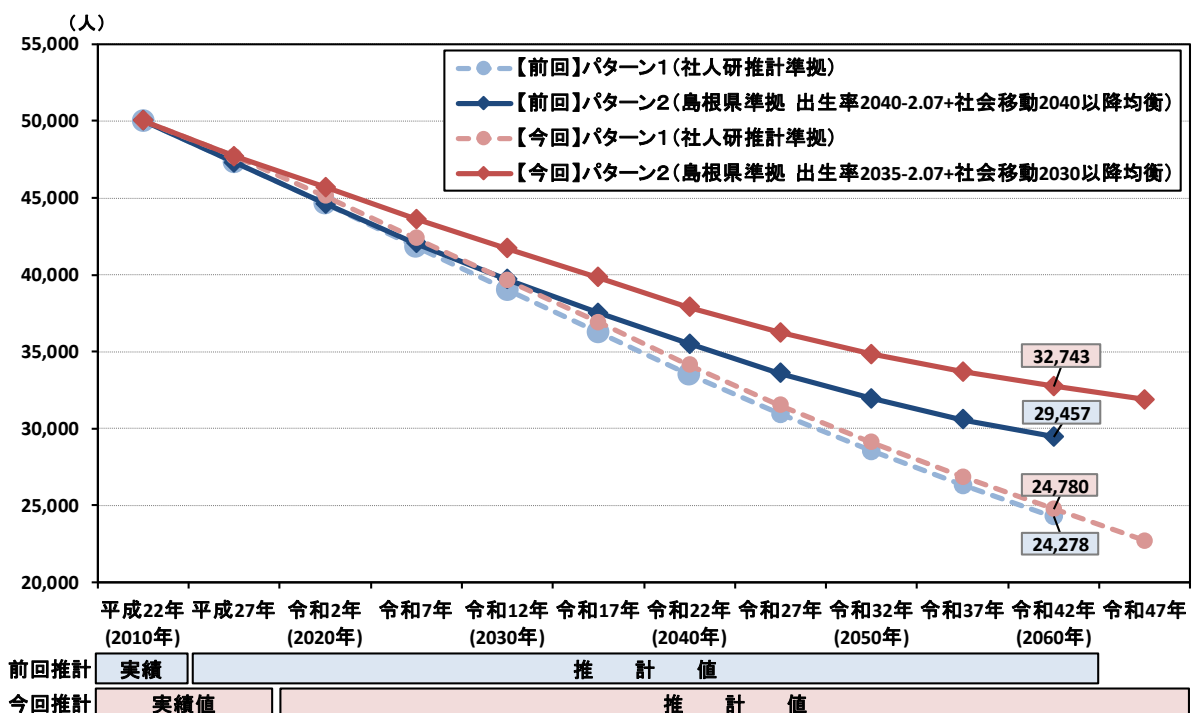
2. 将来人口の推計

(1) 合計特殊出生率や社会移動について仮定値を変えた総人口推計の比較

ここに示す2パターンの推計は、人口変化の影響を考察するため、各条件を設定し益田市の将来人口を推計したものです。

パターン1の「社人研」推計では、2060年（令和42年）の総人口が24,780人となり、パターン2の島根県の人口シミュレーション2020に準拠した推計（合計特殊出生率：2035年（令和17年）に2.07まで上昇、社会移動2030年（令和12年）以降均衡）の場合には、32,743人と推計されています。「社人研」推計と比較すると、島根県の人口シミュレーション2020に準拠したパターンでは、7,963人多い結果となっています。また、平成27年度に策定の人口ビジョン推計結果と比較して、今回推計の求めた人口の減少幅は緩やかとなっています。

■総人口の推計結果



【前回推計】 益田市人口ビジョン 平成27年	実績値		推計値								
	平成22年(2010年)	平成27年	令和2年(2020年)	令和7年	令和12年(2030年)	令和17年	令和22年(2040年)	令和27年	令和32年(2050年)	令和37年	令和42年(2060年)
【前回】パターン1(社人研推計準拠)	50,015	47,306	44,609	41,794	38,992	36,238	33,535	30,946	28,539	26,323	24,278
【前回】パターン2(島根県準拠 出生率2040-2.07+社会移動2040以降均衡)	50,015	47,306	44,615	42,047	39,683	37,512	35,496	33,606	31,959	30,587	29,457

(資料)内閣官房まち・ひと・しごと創生本部提供資料を基に作成

【今回推計】	実績値		推計値									
	平成22年(2010年)	平成27年	令和2年(2020年)	令和7年	令和12年(2030年)	令和17年	令和22年(2040年)	令和27年	令和32年(2050年)	令和37年	令和42年(2060年)	令和47年
【今回】パターン1(社人研推計準拠)	50,015	47,718	45,115	42,383	39,623	36,895	34,141	31,510	29,091	26,868	24,780	22,708
【今回】パターン2(島根県準拠 出生率2035-2.07+社会移動2030以降均衡)	50,015	47,718	45,680	43,609	41,692	39,810	37,883	36,226	34,822	33,681	32,743	31,883

(資料)内閣官房まち・ひと・しごと創生本部提供資料を基に作成

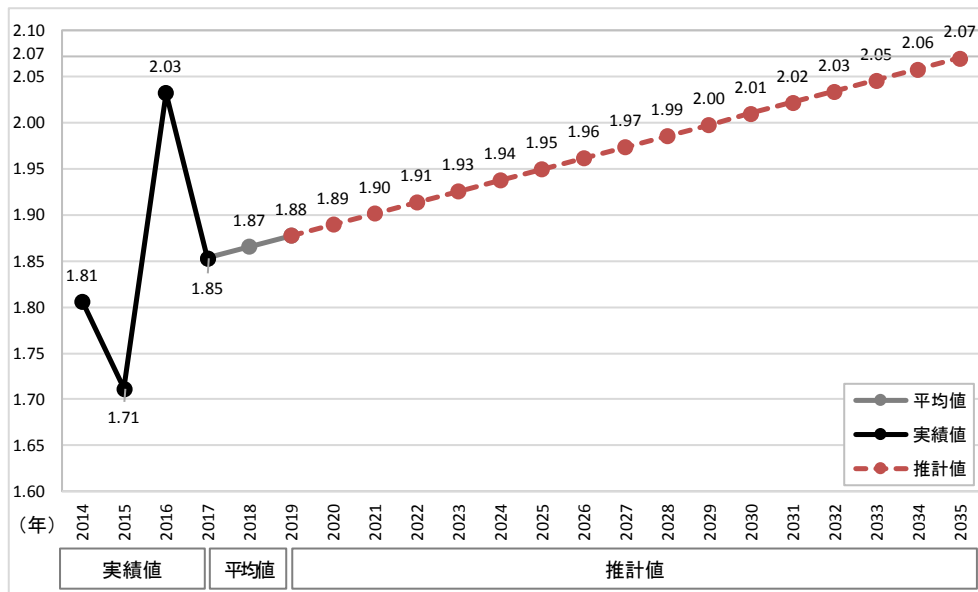
(2) パターン2で用いた合計特殊出生率と社会移動に関する設定の考え方

パターン2の推計に必要な以下に示す仮定値の設定については、島根県の人口シミュレーション2020に準拠しています。

①合計特殊出生率の目標

合計特殊出生率については、島根県の人口シミュレーション2020において、2035年に2.07となっていることから、本市においても直近の実績値を踏まえた2018年(2015～2017年の3か年分の平均値)を起点として、2035年に2.07を目指します。

■合計特殊出生率の目標



②人口の社会移動の目標

人口の社会移動については、島根県の人口シミュレーション2020において、2030年に均衡(≒0)となっていることから、直近の実績値を踏まえた2019年(2017～2019年の3か年分の平均値)を起点として、2030年に均衡(≒0)を目指します。

■社会移動の目標

